

報道機関各位

岩手県立大学ソフトウェア情報学部と山形県立酒田光陵高校との 高大連携事業に関する協定の締結について

岩手県立大学ソフトウェア情報学部では、ソフトウェア情報学に関する専門教育の担い手として、県内の高校はもちろんのこと、県外の高校とも積極的に高大連携事業に取り組んでいます。その一環として、専門学科「情報科」を擁し、文部科学省が先進的な取組を行っている専門学校を指定し支援するスーパー・プロフェッショナル・ハイスクール（SPH）事業（平成 26 年度～）に採択された山形県立酒田光陵高校と本学部は「課題研究」（高校の授業科目）への継続的な支援や定期的な意見交換会議の開催などの事業（平成 27 年度～）を行ってまいりました。

これまでの経緯をふまえ、この度、高大連携事業を通じた生徒・学生の進路意識や学習意欲の高揚を図るとともに、双方の教育の活性化を目的として、岩手県立大学ソフトウェア情報学部と山形県立酒田光陵高校との高大連携事業に関する協定を締結し、調印式を開催することになりましたので、ご案内いたします。今回のような高大連携事業の協定は、岩手県立大学ソフトウェア情報学部としては初めてのことです。今年度より、県内高校とも高校の授業支援を通じた連携事業に取り組んでおり、今後は、県内高校とも同様な協定締結に関し、検討を進めているところであり、より一層有効な高大連携を模索してまいります。

ぜひとも当日のご取材・報道等についてよろしくお願ひします。

記

高大連携事業に関する協定調印式

- 日時：2016 年 5 月 30 日（月）14:00～14:30
- 場所：山形県立酒田光陵高校

経緯

2015 年 2 月に山形県立酒田光陵高校が岩手県立大学ソフトウェア情報学部の高度な専門教育と充実した教育研究体制に注目し、高大連携事業の打診。1 年間の連携試行をふまえ、本協定の締結。

本連携事業の特徴的な点

- 継続性・遠隔性：通常、模擬講義や説明会、1 日体験など短期間の「点」での事業が多い中、本事業では 1 年間を通じオンライン会議ツールも活用しながら、高校の授業科目の一つである「課題研究」の進捗に応じた「線」での継続的な支援を実施することで、より質の高い学習効果が期待できる点。
- 密なコミュニケーションの実現：高校教員と学部教員との間で定期的なオンライン会議を開催し、教育の高度化のための意見交換を行う体制を築いている点。
- 学生参加：通常の高大連携事業では、大学教員による講義が主である中、本連携事業では学部生による高校生への学習支援も志向しており、これを通じて学部生の成長も意図している点。

<本件の問い合わせ先> 岩手県立大学ソフトウェア情報学部 准教授 後藤裕介
電話 019-694-2698 Email: y-goto@iwate-pu.ac.jp

<別紙資料>

1. 山形県立酒田光陵高校について

平成 27 年度末現在で全国の情報科で唯一スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール (SPH) 事業の指定を受けており、その先進性と質の高い教育体制・カリキュラムの評価が高い高校です。

SPH 事業とは：

文部科学省が平成 26 年度から実施する事業で、大学・研究機関・企業等との連携の強化等により、社会の変化や動向に対応した高度な知識・技能を身に付け、社会の第一線で活躍できる専門的職業人を育成するため、先進的な卓越した取組を行う専門高校を指定し支援する事業であり、注目されています。

(参考 1) 酒田光陵高校 SPH 事業 <http://www.sakatakoryo-h.ed.jp/wp/sph/>

(参考 2) 文部科学省「SPH 事業」 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/shinkou/shinko/1366335.htm

2. 本高大連携事業における特徴的な取組例

- 学部授業を参考にした授業支援：
酒田光陵高校の 2 年生による「課題研究」において、本学部必修科目「プロジェクト演習」を参考にした地域課題解決型の形式を採用。プロジェクト演習は経済産業省が選定する「社会人基礎力を育成する授業 30 選」にも選ばれるなど外部からの評価も高い授業であり、大学で培った教育ノウハウを高校での教育にも活用する点が特徴となっています。
(参考)「プロジェクト演習」について <http://www.soft.iwate-pu.ac.jp/topics/2015/20160225.php>
- オンライン指導と現地研修を組み合わせた継続的な授業支援：
酒田光陵高校の 3 年生による課題研究において、本学部教員と学部生がオンライン会議システムを使った継続的な指導と夏休み期間における 3 日間の本学における集中実習を組み合わせた支援を行っています。昨年度は 3 名の高校生が「ソフトウェアの高速化手法」という非常に高度な内容に取り組み、高いレベルでの課題研究活動が可能になりました。
- 高校の授業への学生の参加，大学授業への高校生の参加：
前述の授業支援には本学部の学部生も携わっています。高校生は今後学部授業「プロジェクト演習」において、高校生チームとして取り組み、大学で行われる成果発表会への参加も検討しており、双方の学びの場において、交流を行いながら学びの高度化を実現していこうと検討しています。



写真：遠隔による授業支援（左）と本学での研修の様子（右）

(以上)